

世界の人びとのための JICA 基金
第 1 回運営委員会開催報告

日時：2008 年 2 月 25 日（月）14：00～16：00

場所：JICA 本部 12A 会議室

出席者：

【運営委員】（50 音順）

大野 泉 委員（政策研究大学院大学 教授）

日下 基 委員（株式会社国際開発ジャーナル社 取締役 編集長）

金子 節志 委員（独立行政法人国際協力機構 担当理事）

【寄附金事業担当部署】

国内事業部国内連携グループ長 橋口道代

同部同グループ 連携チーム長 前田英男

松尾沢子、岸田 匡

【オブザーバー参加】 総務部総務グループ組織運営チーム長 加藤隆一

企画・調整部企画グループ長 植嶋卓巳

総合企画チーム長 村上裕道、平岡久和

1．開会、出席者の自己紹介

2．開会の挨拶

JICA による寄附金事業の開始の経緯、本基金の趣旨と現状の概要についての説明とともに取組を進めたい旨の挨拶がなされた。

3．JICA 寄附金事業概況説明

国内事業部から資料に基づき概況説明を行い、各委員に了承された。

4．審議事項の説明

（1）基金運営要綱及び平成 19 年度試行的実施状況

国内事業部から資料に基づき説明を行い、説明内容について全委員の了解が得られた。

（2）平成 19 年度寄附金配分方針（案）

国内事業部から資料に基づき説明を行い、説明内容について全委員の了解が得られた。

5．審議結果

- ・ 平成 19 年度に集めた資金に基づく使用先募集の実施については、試行的実施であ

ることを明確に打ち出して、今後は、NGO等の想定される申請者の意見も聞きながらより使いやすい制度にしていくことをしっかり伝えていく必要がある。

- ・ 事業実施期間は、今回は試行として1年とし、今回の結果を受けてNGO等とも議論しつつ、将来的に多年度方式にするなど資金の使いやすさをJICA基金の“売り”にしていくべきである。
- ・ 1件あたりの金額規模については、申請者側の事務作業等の負担に見合った規模であるべきである。
- ・ 初年度に申請者側にJICA基金は使いにくいという判断をされると、本事業を進めるのは難しくなるのでその点を考慮する必要がある。

6. 総括

今回の運営委員会の結果として、平成19年度中に集めた資金の配分方針案（公募実施要領および応募要項、全体スケジュール）については、あくまでも試行的実施であることを明確にして進め、今後の実施方針については、NGO等とも協議して改善を図っていくこととなった。

国内事業部では本日の議事を基に方針案に修正を加え、公募の開始に向けた準備を進めることとなった。

以上